

木造社屋 建設に注力

の実現に向けた取り組みに関心が高まる中、鉄と比べ製造時の二酸化炭素(CO₂)排出量が抑えられる木造で商機を探る。2026年までに非住宅分野の売上高を現在の2倍超に高める方針だ。

住宅建築販売のフクダハウジング(新潟中央区)は、オフィスなど一般住宅以外の用途での木造建築の提案に注力している。今年に入り新潟市東区で木造社屋を引き渡した。持続可能な開発目標(SDGs)

フクダハウジング

(新潟中央区)

住宅事業の知識生かす

フクダハウジングが社屋を手がけたのは、同じ福田組(新潟市中央区)グループの創伸建設(同市東区)。戸建てで広く用いられる木造軸組工法で建てた平屋で、床面積は452平方メートル。建築費は非公表だが、今回の仕様では軽量鉄骨造で建て

の打ち合わせを繰り返して、壁紙など内装に意見を反映。憩いのスペースとして、事務室外側にテラスを設けた。

木材は、鋼材に比べて製造や加工に要するエネルギーが少なく、木造建築は鉄骨に比べCO₂排出量が大幅に少ない特徴がある。

創伸建設の社屋は築30年余のプレハブで老朽化が進んでいた。同社の馬場慎次社長は「SDGs

に取り組み一環で木造にしようとした。木の温かみがある快適な環境で業務に取り組みしている」と話す。

フクダハウジングの2022年12月期の売上高は22億9千万円。うち3分の2を住宅事業が占め、年間約40棟を手がける。その他は不動産売買や賃貸事業などで構成される。

野村総合研究所の推計では、21年度に国内で87万戸だった新設住宅着工戸数は30年度に70万戸、40年度に49万戸と20年間で4割以上減る。

フクダハウジングは、落ち着いて過ごせる空間づくりや細部にわたる顧客要望への対応など、住宅事業で培った強みを武器にオフィスなど非住宅分野を拡大する狙いだ。

これらが売上高に占める割合を今後3年間で現在の2倍超となる15%ほどに高めたいとする。

同社の木津広美社長は「仕事でも豊かさを感じられる木造の自由設計を、オフィス建設の選択肢として広めたい」と力を込めた。



①フクダハウジングが木造軸組工法で社屋を建てた創伸建設の事務室。内装にも木の質感を生かしている。②は外観＝新潟市東区

ジンが国別最高

八海醸造(南魚沼市)のグループ会社で、北海道で洋酒を製造するニセコ蒸溜所(ニセコ市)が、「ワールド・ジン・アワード2023」のクラシックジン部門で国別最高賞を受賞した。国際的な品評会で同蒸溜所のジンが受賞するのは初めて。

同アワードは、世界最高峰のジンの品評会とされ、世界各国のジンがエントリーしている。ジンの種類ごとに11部門に区分され、その中から各国の最高位が決まる。

クラシックジンで日本の最高位に輝いたのは、2021年に製造を開始したニセコ蒸溜所の「ohoro」



八海醸造グループ・ニセコ蒸溜所

オーシャンシステム(三糸) ヨシケイ両毛子会

群馬・栃木地区営業エリ

食材宅配、スーパーなどいる。のオーシャンシステム(三糸) 両毛地区も(条市)は14日、群馬県と栃木県の一部エリア(両毛地)が、これまで、